第６学年　外国語科学習指導略案

教科等	外国語科	単元名	What do you want to be?	本時	全７時間扱いの６時間目
学級	６年２組	授業者		教室等	３階　イングリッシュルーム

＜本　時　の　指　導＞

＜本時のねらい＞
○自分の将来の夢（職業）やその理由を、英語を使って伝え合うことができる。

	主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T　予想される児童の反応:C	○研究主題にせまる６つの手立て □…指導上の留意点　☆…評価　※UD
導入	１.挨拶をする。[Greeting] ２.既習事項の確認をする。[Warming-up]	□歌を楽しみ、外国語の雰囲気に入りやすくする。また、口ずさみながら言語材料に慣れ親しませる。 ※スモールステップ化　※ICTの活用
展開	３.めあての確認をする。[Small Talk] [Today' s goal]【発見】 T:今日は、最後のプレゼンテーションに向けて自分の将来の夢やその理由を伝え合いましょう。 自分の将来の夢や理由を伝え合おう	□教師とALTによる「Small Talk」を聞き、本時の内容の見通しをもたせる。 □声の抑揚や表情、手振りなどに注意を向けさせる。 ○話題設定の工夫 キャリア教育との関連を図りながら、自分の就きたい職業や理由、友達の夢を応援する表現を学ぶ。 ○「対話」のモデルの共有 教師とALTによる「対話」のモデルを示し、どのような交流活動をするとよいのか全体で共有する。モデルを見ることでより安心して交流に取り組めるようにする。
	４.既習の表現を確認する。[Practice] T:これまでに習ったキーワードフレーズを練習しましょう。 「I want to be a(an)_____.」「I like _____.」「I can _____.」 「I'm good at ____.」「I'm interested in ___.」「I want to _.」 ５.ペアで交流する。[Activity1]【対話】 T:ペアの人に自分の将来の夢について伝えましょう。聞いている人は聞いた後にチェックシートを参考に交流をしましょう。 ６.グループで交流する。[Activity2]【対話】 T: 近くのペアと組んでグループになります。ペアの人は１回目よりどうなったかを伝えましょう。 ７.より多くの人と交流する。[Activity3]【対話】 T:プレゼンテーションに向けて、もっと多くの人に聞いてもらいましょう。	□ALTと連携し、言語材料を繰り返し練習させる。 ○交流の目的と視点の明確化 発表を相互評価することで、次時で行う発表に生かす。良い発表とはどのようなものかチェックシートを活用する。 □学習内容の表現や話型を表示し、英語で交流しようとする意欲を高める。 ※視覚化 ○話し合いの話型の提示 話し合いの話型「友達の考えを受け止めよう」、「友達の考えの良いところを伝えよう」（英語版）を示す。 ☆互いの将来の夢や理由を伝え合い、英語を使って相互評価をする。（交流） 【行動観察】【ワークシート】
終末	８.本時の学習を振り返る。[Reflection] ９.挨拶をする。[Greeting]	□次回の授業の内容について触れる。本時のねらいに照らして児童を称賛する。

【板書計画】

Lesson7　What do you want to be？

Today's goal　自分の将来の夢や理由を伝え合おう

I want to be a/ an (　　).

Why?

I like (　　).　I can (　　).

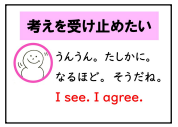
I'm good at (　　).

I'm interested in (　　).

I want to (　　)(　　).

スクリーン

※交流で使用するフレーズ例を提示



【研究主題にせまる６つの手立てとの関連】

（1）「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話題設定の工夫

小学校卒業を控えた児童たちに自己の将来像をイメージする活動を通じて、様々な職業や自分自身のやりたいことについて興味・関心を高め、自身の将来の夢や理由を、英語を使って伝える話題設定をする。

「対話」のモデルの共有

教師とALTによる対話のモデルを示すことで、どのような交流活動をするとよいのか全体に共有する。また、英語を使って交流することを意識づける。

話し合いの話型の提示

英語版の話型「友達の考えを受け止めよう」、「友達の考えの良いところを伝えよう」を提示することで、前向きな交流活動を促す。

（2）「学び合う」ための手立て

交流の目的と視点の明確化

発表を相互評価する際には、「より聞き手にとって分かりやすい発表にするため」という目的と、「友達の発表のよいところはどこか」「もっとよい発表にするために何を意識したらよいか」といった視点を与える。目的と視点を明確に伝えた上で相互評価させることで、自分の発表に活かす。